

# 使用済み燃料巡り発言

福井県内の原発から出る使用済み核燃料について、関西電力の担当者  
が県議会の野党系会派への説明会で、中間貯蔵施設や青森県六ヶ所  
村の再処理工場が稼働しなかった場合、「どこにも持って行けなくな  
る」などと発言していたことが分かった。使用済み核燃料の県外搬出  
を四半世紀にわたって求めてきた県の姿勢と逆行する形だ。

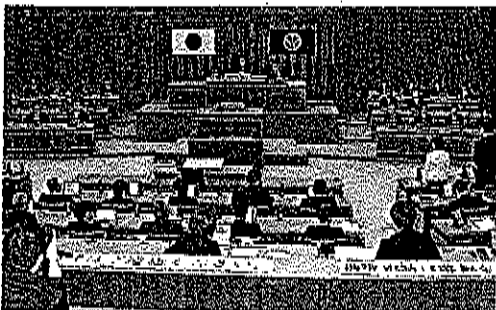
関電は県内の原発に新たな乾式貯蔵施設の設置を計画している。一連の発言は2月26日に野党系会派に開いた設置計画の説明会で、関電の担当者から飛び出した。出席した複数  
の県議が証言した。

県原子力安全対策課によると、使用済み核燃料が県内に留め置かれる可能性について関電が公式に言及したことはない。同課の担当者は「内容を把握していないので、コメントできない」と話している。

説明会では県議から乾式貯蔵施設を利用する期間を区切るなど、県内に使用済み核燃料がたまり続けない  
と懸念が深まりそうだ。

関電は取材に「担当者はそのような趣旨で発言していない。中間貯蔵施設の操業開始後、速やかに搬出することを考えている」と答えた。

県議会の「越前若狭の会」は11日の本会議で、乾式貯蔵施設に保管期限を設けるよう求める意見書を提案したが、否決された。(小田健司)



関西電力の乾式貯蔵施設に保管期限を設けるよう求めた意見書は、賛成少数で否決された＝11日、県議会

## 関電担当「どこにも持って行けなくなる」